

女教授

2007(平成19)年7月24日鑑賞<GAGA 試写室>

★★★



監督・脚本=イ・ハ/出演=ムン・ソリ/チ・ジニ/パク・ウォンサン/ユ・スンモク/キム・ヨンホ/チョン・ウヒョク/シン・ジュア/チョ・ソンハ (エスピーオー配給/2006年韓国映画/104分)

……『オアシス』(02年)で脳性麻痺の女性を感動的に演じたムン・ソリが、今回は二重人格(?)の知的でセクシーな女教授役を熟演!嫉妬に狂った男の調査によって彼女の過去と男関係が赤裸々に暴露されていく中、見えてくる女教授の人間像は……? エロティックコメディの前に「ブラック」をつければ、そのハードさと面白さがより一層わかるはず……?

久しぶりにムン・ソリの演技を……

「私が選ぶ韓国映画ベスト5」の中に必ず入れようと思うのが、ムン・ソリが脳性麻痺の女性コンジュを演じた『オアシス』(02年)。これは、2005朝日ベストテン映画祭で外国映画トップになった作品だが、「こんなすごい純愛ってホントにあるの?」と思い、「ホンモノの韓国映画ここにあり!」と私が評価したもの(『シネマルーム7』177頁参照)。

『オアシス』はストーリーのすばらしさとともに、ベネチア国際映画祭新人女優賞を受賞したムン・ソリの体当たり演技が圧倒的な輝きを見せていた作品だ。その後彼女が主演した『浮気な家族』(03年)を私は見逃したが、『大統領の理髪師』(04年)は出番が多くないもののやはり彼女の演技はキラリと光っていた(『シネマルーム7』277頁参照)。したがって、今回の『女教授』も大いに楽しみに……。しかも、「ルネサンス」と名付けられた第3回韓流シネマ・フェスティバルの「ルネサンス6」にあたるこの『女教授』のテーマは「官能」であり、エロティックコメディとのこと。さらにプレスシートには、ストレートのロングヘアで、黒のドレスから胸の谷間をチラリと覗かせたムン・ソリの姿が……。

大学教授＋環境活動家の魅力は……？

今回ムン・ソリが演ずるのは、シムチョン大学の染色科の教授であると同時に、環境団体「緑のシムチョン21」で活躍するチョ・ウンスクというセクシーだが、何やら不思議な雰囲気をもった女性。

そもそも染色科という科目がよくわからないし、「緑のシムチョン21」がどんな活動を行っているのかもサッパリわからないが、これだけの肩書きがあれば、世間からは一応信用されるはず。そのうえ、やっぱり女は得！そして、美人はもっと得！知性と美貌を備え、社会的地位も万全となればマスコミが注目し、男たちが騒ぐのが日本のパターンだが、多分韓国はその上をいくはず……。

今ドキ、偽装のオンパレードだが……？

ウンスクは今『私の故郷の環境を守る』という番組の取材を受けているところ。カメラ越しに覗くウンスクの姿も魅力的だが、左足が悪いためかタイトスカートの下に隠された足を引きずって歩く姿も超セクシー……。そのため、この番組の取材のためにやってきたキム・ヨンホプロデューサー（パク・ウォンサン）は、ウンスクに一目惚れした様子。

このように、冒頭スクリーン上には番組製作以外の面での「見どころ」が次々と登場してくるが、肝心の番組内容の話になると、ウンスク教授は多少話にはトンチンカンな面が……？ ホントにこの女教授の知的レベルは高いの……？ さらに、車を動かす時、空き缶を放り捨てたり、窓から出てきたスーパーの袋が風に舞い上がったり……。ホントに彼女は環境活動家……？

今ドキ、日本でもそして中国でも偽装・偽造のオンパレードだが、韓国は大丈夫……？ 思わず、そんな心配をしてしまったが……？

R 指定をしなくて大丈夫……？

番組プロデューサーの仕事をしていれば、魅力的な女性と遭遇することはいくらかもあるだろう。しかし、通常は仕事上での1回こっきりのおつき合いとなるはず。しかし意外にも、ウンスクは自分からキムプロデューサーを誘うような素振りを……？ さて、それはなぜ……？

そんな疑問を持ってスクリーンを観ていると、そこにはアッと驚くシーンが次々と登場！ すなわち、その後スクリーン上で展開される数シーンは、まるでポルノ映画顔負けのハードなものだ。いくらコメディタッチの映画だからといって、この映画がR-15、R-18指定されていないのは、一体なぜ……？ また指定しなくても大丈夫……？

人気漫画家も客員教授に

少子高齢化を迎えた日本の大学は、遂に全員入学時代を超え、定員割れ状態。そうなれば、大学側も学生獲得競争のため人気教授を集めたいと思うのは当然で、最近では日本でもあちこちの私立大学でそんな傾向が……。

韓国の地方都市にあるシムチョン大学もそれは同じようで、今回シムチョン大学は、人気漫画家のパク・ソッキュ（チ・ジニ）を客員教授として招くことになったらしい。別にそんなやり方にケチをつけるつもりはないが、この映画では、ソッキュがどんな漫画を描いているのか、また学生たちに何をどのように教えているのかについての描写は全く触れないから、彼の漫画家としての実力がわからないのが多少不満……？

といっても、この映画が女教授をめぐる男たちのドタバタ劇と、その中で隠されていた女教授の秘密が暴かれていくというブラック・エロティックコメディだとしたら、そんなものを描く必要がないのは当然。しかして、ムン・ソリはもとより、彼女を取り巻く男たちはみんな真面目な顔をして一生懸命演技をしているのだが、徐々に「これはケツタイな映画だぞ！」という雰囲気が充満してくることに……？

第3のキーマンはユ先生

プレスシートには「女教授をめぐる5人の男たちとの妖しい関係」と書いてあるが、実質的には3人。その第1はキムプロデューサー、第2はソッキュ、そして第3はユ先生（ユ・スンモク）。このユ先生も教授室（というよりも、小学校の教員室のような感じ……？）に席を並べて座っているから、なぜ教授ではなく小学校教師という肩書きになっているのかよくわからないが、とりあえずユ先生と表現しておこう。

ウンスクに思いを寄せている男が5人もいれば、1人くらいは偏執狂的なタイプがいてもおかしくないもの。まして、舞台が大学という狭い世界の中であれば、教育や研究そっちのけで魅力的な女教授の尻ばかり追っかける男がいるのもありうる話

……？

しかして、このユ先生はハンサムな男性ソッキュが大学に「侵入」してきたため、ウンスクが最近ユ先生たちに冷たくなっていると解釈したから始末が悪い。そこでユ先生は、ソッキュの過去を調べるにより何らかの弱みを発見しようと、調査を開始したが……。

さて、どんな過去が……？

最近日本では、個人情報保護法の施行もあって個人情報の保護にはチョー敏感。しかし、その点韓国では……？ 私は残念ながらその韓国事情をよく知らないうえ、ユ先生がどのようなルートで、いくらの費用をかけて調査したのかもよくわからない。しかし、ユ先生の元には女教授の過去とソッキュの過去について、驚くべき事実(?)が報告されてきたからビックリ。

もっとも、それをここで書いたのでは誰もこの映画を観なくなってしまうから、それは映画を観てのお楽しみとしておこう。あえて1つだけヒントを言えば、登場人物の1人としてソッキュの兄パク・ソゴ(チョ・ソンハ)を挙げていること……？

ちなみに、どうやったらここまでの調査ができるのか、弁護士の私も教えてもらいたいものだが……。

やっぱり女はいじわる……？

この映画には、ウンスクの他もう1人若い女性ミョンヒ(シン・ジュア)が登場する。彼女はウンスクの染色科の教え子(だと私は理解している)だが、いつの頃からか教授室(教員室)に座っているから、その関係がよくわからない。それはともかく、男たちからただ1人チヤホヤされることに馴れきっているウンスクにとって、自分より若い女性が近くに登場してくると目の上(下)のたんこぶになるのは当然……？

この映画の中盤になってくると、ウンスクについても冒頭の知的な女教授という印象が少し薄れ(化けの皮がはがれ……?)、イヤな女丸出しという印象が少しずつ……。そしてウンスク教授のそんなイヤな面は、このミョンヒいじめの様子にくっきりと……。大学内における、こんな先輩教授による若手いじめの姿を見ていると、やっぱり女はいじわる、とってしまったが……？

オンナとしての行動の指針をどう理解……？

この映画のラストはある時突然訪れてくるから、あらかじめ用心をしておいた方がいいかも……？ なぜそんなことになるのか……？ それは、ウンスクのオンナとしての行動の指針を、私たち男は全く理解できないから……？

この映画は、プレスシートではエロティックコメディを売りにしているが、私はその頭に「ブラック」をつけなければと考えている。つまり、それほどこの映画で暴かれるウンスクの過去と人間性の変貌ぶりがすごいということだ。そもそも知的で環境活動の意欲に燃えた女教授が、なぜすぐに番組製作のプロデューサーとできてしまうの……？ しかも、そのプロデューサーは奥さん持ち……。スクリーン上には、キムプロデューサーの妻と対峙するウンスクの姿も登場するから、そんな「三角関係」の処理の仕方を含めて、ウンスクのオンナとしての行動の指針を少しは勉強したいもの。まあ、いくら勉強しても、あなたが男であれば所詮わからないかもしれないが……？

最後に、『オアシス』のような感動的な演技ではないにしても、こんなケツタイな女教授役を見事に演じたムン・ソリの演技力には、やっぱり拍手！

2007(平成19)年7月25日記